

子どもの感染症には特徴がある？

感染症は、体の様々な部位から病原微生物が侵入することで、発熱、咳、鼻汁、嘔吐や下痢などを認める疾患です。子どもたちが罹患する感染症は大きく分けて**ウイルス性**と**細菌性**の2つがありますが、そのほとんどが**ウイルス性感染症**です。

よって、ウイルス性の感染症には無効な抗菌薬を服用しても効果は発揮されず、抗菌薬が効きにくい細菌（耐性菌）が増えてしまい、抗菌薬による治療を難しくします。

耐性菌のために治療がうまくいけなくなる子どもたちを増やさないためにも、ふだんから抗菌薬についての正しい知識を持って上手に使用していくことが大切です！

抗菌薬を上手に使用することとは、必要なときに、十分な量を決められた期間使用することです。

薬剤耐性を防ぐには？

その1

抗菌薬を処方された場合は、医師の指示どおりの回数と日数を守って、最後まで継続して飲みきりましょう。抗菌薬を取っておいたり、別の機会に飲んではいけません。また、他の人にあげたりもらったりはやめましょう。

その2

日頃からの体調管理と予防が大切です！次の3点を心がけましょう。

・正しい手洗い

指先、爪の間、指と指の間、手のシワ等、汚れが残りやすい部分を意識して、せっけん和水でよく洗いましょう。

・咳エチケット

咳やくしゃみのしぶきが飛ばないように、マスクをつけましょう。マスクがないときは、ティッシュで覆うか、袖の内側で口や鼻を覆いましょう。

・ワクチン接種

感染症にはワクチンで予防できるものがあります。ワクチンを接種すると、体に抗体ができ、感染しにくくなったり、感染しても症状が軽くなったりします。



出典：国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター

**医療費は、皆様が納めた保険料や税金で賄われています。
安定した医療保険制度を子どもたちの未来につなげましょう！**

休日・夜間の子どもの急な病気などへの対応に迷ったら、小児救急電話相談窓口
「#8000」または**「087-823-1588」**を利用いただくと、
看護師等が相談に応じ、助言を行います！ 【相談受付時間：毎日午後7時～翌朝8時】

